
とある魔術師の黙示録

猫屋敷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある魔術師の黙示録

【コード】

N0928BA

【作者名】

猫屋敷

【あらすじ】

これは、とある魔術師の物語。聖人として生まれ、魔神に迫る力すら手にした彼が望む、たった一つの願いとは？*これは自分が近い内に連載しようと思っている小説を短編にしてみたものです。

（前書き）

どうも、猫屋敷と申します。

これは自分が近い内に連載しようと考えている小説を短編にしたものです。

少年は特別だった。

『神の子』と同じ身体的特徴・魔術的記号を持って生まれてきた、その身に『神の力の一端』を宿す、『聖人』。

生まれたその時から高い地位を約束され、特別な努力をしなくとも成功するほどの才能を持ち、ただそこにいるだけで人の輪の中心になれるほどの人望。

誰もが羨むほどのモノを持った少年には、自身の持つモノ全てを賭してでも叶えたい、願いがあつた。

彼にとって姉のような存在であつた女性と、彼女が願う願いを叶えたい。

その願いを、少年は己の魂に魔法名として刻んでいた。

F d e l i s 0 0 1、と。

「魔法の射手 連弾・雷の十六矢!!!」

放たれた「魔法の射手」が、地面に直撃して土埃を上げ、視界を覆う。

その隙に魔法を放った赤毛の少年、ナギ・スプリングフィールドは魔力を練り上げ、詠唱を紡ぐ。

「来れ 虚空の雷 薙ぎ払え 『雷の斧』！！」

雷系の上位古代語魔法。膨大な魔力を秘めた雷撃は、その余波で土埃を払いながら標的である少年を呑み込もうと迫る。

しかし、そこで不可解な現象が起こる。

少年を呑み込もうとしていた雷撃は、少年を避けるように四方に分裂する。

予想外の出来事と強力な魔法を放ったことによる硬直によって生まれた一瞬の隙を突くように、一枚の符が少年の手から放たれる。

「疾^{チッ}！」

漆黒の紙に、水銀より採り出されたる朱で急急如律令と書かれた霊符は、地獄の炎となってナギに迫る。

いわく、泰山府君炎羅符呪。

「っ！」

咄嗟に障壁を張るが、炎の奔流を防ぎきることができず、体のあちこちに軽い火傷を負う。

そこを一気に畳み掛けようと少年が動くが、黒髪的眼鏡をかけた青

年、青山詠春の剣技で牽制される。その攻撃を紙一重で避ける少年を尻目に、ナギは再び魔力を練り上げ、詠唱を行う。

「契約により 我に従え 高殿の王 来れ 巨神を滅ぼす 燃ゆる 立つ雷霆」

膨大な魔力を練り上げ、詠唱を行うナギに危機感を覚えたのか、その行動を妨害しようと動くが詠春の攻撃と、白いローブの青年、アルビオレ・イマの重力魔法に動きを止められる。

「百重千重と 重なりて 走れよ稲妻 『千の雷』!!!!」

雷系最大呪文。強力な対軍用の広域殲滅魔法で、本来ならば個人に対して使うような魔法ではないのだが、ナギは躊躇なくそれを放つ。

先程の、攻撃が四散した現象が少年の能力であるとすれば、その能力を遥かに上回る威力を持つ攻撃を放つしかない。そして、どの程度の攻撃までなら防ぐことができるのか分からない以上、とりあえず一番強い魔法を使ってみよう、という安直な考えの下で放たれた、無数の雷は今度こそ少年を呑み込もうとする。

それに対して少年は、いつの間にか振り上げていた手を、振り下ろす。

たったそれだけの行為で、ナギの放った必殺の威力を秘めた、無数の雷は切り裂かれる。

「……なっ?!」「」

戦いの最中でありながら、三人は思わずその場に立ち尽くしてしま

うが、無理もない。

一体誰が予想できようか？地形すら変える、天災クラスの魔法を、ただ手を振るうだけで消し去るなど。

「日本には、雷に関する伝説が数多く存在します。伊邪那美命の体に生じた八柱の雷神の総称である『火雷大神』ほのいかづちのおおかみや、落雷を斬った刀とされる『雷切』の伝承なんかは有名ですね。私がやったのはそういった伝承の再現……いえ模倣と言った方が正しいですか」

「伝承の模倣……あなた魔術師ですね」

「ええ。関西呪術協会長付き補佐、一条蓮と申します」

これが、魔術師と英雄たちの出会い。

『グレートブリッジ攻防戦』

そこで、蓮は白い髪の男とぶつかり合う。

「『千刃黒耀剣』」

白い髪の男が詠唱を終えるや、地面が無数の石の剣となって、蓮を貫こうと襲いかかる。

それに対して蓮は、折り紙で素早く亀を折り、呪文を叫ぶ。

「青キ木ノ札ヲ用イ我ガ身ヲ守レ!!」

男の放った無数の剣群は、蓮の手前で不可視の壁にぶつかったかのように一瞬動きを止め、あちこちに飛散する。

「……………やはり君は脅威だ。たった一人で戦局を覆す程の力はいずれ僕らの計画の障害になる、今ここで排除させてもらうよ」

「丁重にお断りさせてもらうよ。魔法使い共のくだらない戦争なんかで死にたくはないからね」

魔法世界最古の都、王都オスティアの最奥部『墓守り人の宮殿』。宮殿の周りには、宮殿を守るように大量の召喚魔があり、それを一方的に屠る蓮。

宮殿の周囲には連合・帝国・アリアドネー混成部隊もいるのだが、聖人である蓮の攻撃はその余波だけで並の人間を消し炭にするレベルのモノであり、手助けしようにもできない状況であり、彼と共に戦えるであろう『^{アラルプラ}紅き翼』の一行は宮殿内で『完全なる世界』のメンバーと最後の決戦を演じており、ここにはいない。

『完全なる世界』の盟主『^{ライフメーカー}造物主』がナギに倒され、世界を無に帰

す儀式を止める為の代償として、空中王都オスティアは墜ちた。

『墓守り人の宮殿』での決戦から二年。

アリカは「父王殺害」「完全なる世界」との関与の疑い」などの罪からケルベラス大渓谷で処刑されることになり、それを知ったナギ達『^{アラルプラ}紅き翼』と蓮は処刑場に侵入していた。

元老院議員の長つたらしい前置きが終わり、アリカは渓谷に身を投げるがそれをナギが受け止め、地上では『^{アラルプラ}紅き翼』の面々が元老院と衛兵を無力化し、谷の下ではナギとアリカに群がる魔獣たちを蓮が鋼鉄製のワイヤーと『^{テレスマ}天使の力』を利用した魔術で排除する。

そして、『^{アラルプラ}紅き翼』は旧世界に渡り、そこから新たな物語が紡がれる。

これ以上書くと切り上げるタイミングが無くなってしまつので、ここまでにします。
以下はちょっとした思いつきを書いたオマケです。キャラ崩壊などがあるのでご注意ください。

「エヴァちゃん」

背後から聞こえてくる猫撫で声に、吸血鬼エヴァンジェリン・A・K・マクダウエルは全身を震わせる。

しかし、時既に遅く。エヴァジェリンの両脇の下から二本の腕が伸びて、彼女の体を拘束する。

「どうしてエヴァちゃんはこんなに可愛らしいのーっ！っ！って、ぬうおおあーっ？」

彼女を拘束している女性、ワシリーサの言葉が絶叫に変わったのは、エヴァンジェリンが手に『断罪の剣』を展開してワシリーサに斬りかかったからだ。

「とりあえず死ね！！用があるならその後で聞いてやる！！」

「エヴァちゃんたら、またそんな切れ味抜群の剣なんて振り回してえ。でも、ジタバタと暴れるエヴァもラヴリーだわあ！！」

鉄であろうと切断できる剣に斬られても、顔色一つ変えない変態を『こおるせかい』で永久凍結させてやるうかとエヴァンジェリンは思った。わりと本気で。

「木乃香……………なんで？」

「言ったはずやで、明日菜。ウチは魔術師として、協会の長として生きていくって」

手に霊符を持ち、構える。

その目に迷いはなく、ただ真っ直ぐに前を視ている。

「ウチは別に明日菜に怪我させる気はないんよ。でも、ウチらの邪魔をするんなら話は別や」

「……………それでも、私はアンタを止める。例え戦うことになっても、絶対に」

そうか、と木乃香は悲しげに微笑むが、すぐにそれは消え、魔術師の顔になる。

そして、互いの想いを懸けた、悲しい戦いは幕を開く。

(後書き)

もの凄く中途半端ですが、これ以上やろうとすると文量がとんでもないことになってしまうので……………。

最後の部分は作者のちょっとした気まぐれです。

序盤で出した『火雷神』というのは八柱の雷神の総称で、雷の多い地方では落雷から身を守る神として信仰されています。『雷の斧』はその伝承に則った魔術で回避しました。

こんな感じの小説ですが、連載するにあたって何かご意見がありましたら、感想の方にお願ひします。

あと、感想の方もいただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0928ba/>

とある魔術師の黙示録

2012年1月2日01時55分発行